令和5年2月16日

学校評価委員会（第3回）

敬愛学園高等学校

- 1 実施日時 令和5年2月7日（火） 10:20-12:20
- 2 内 容 ①学校状況・評価アンケート説明 ② 3限 授業見学 ③ 講評・まとめ
- 3 出席者 釜萮千葉女子高校長、高梨千葉東校校長 澤田轟町小校長、豊川轟町中校長、
宍倉稲毛区長、久保PTA会長、奥山校長、 宇留間同窓会長（欠席）
- 4 講評

<授業に関して>

- ・ 創意工夫をこらした授業を見学することができた。「今はまっているもの」をプレゼンする。あるいは発表者に対する褒めちぎり。「できてるよー」のメッセージを送ることは今後大事になってきます。
- ・ スポーツクラスでは生徒の発言を引き出す授業、特進クラスでは更に力を伸ばす授業とクラス毎にそれぞれ適している授業が展開されていた。
- ・ どのクラスも落ち着いた授業態度。教員と生徒の関係が良好で、信頼関係ができていると見えた。
- ・ 幅広い生徒層に対して様々な授業形態を用意して授業（タブレット端末を使った授業、座学での授業、グループワークなど）を行っていた。対話的な場面も設定していました。
- ・ 先生と生徒の距離感が良く、対話的な授業が展開され、どの生徒も良い表情で参加していた。
- ・ 校長先生が「手を抜く生徒はいない」「できることを精一杯やる」とおっしゃっていました。最も大切なことだと思います。

<総合的探究>

- ・ 総合的探究の授業では、教員が真剣に取り組むか否かが課題であり、ほどほどにやっている学校もある中、他校より進んでいる。イナゲイメージではその成果が現れていた。

<アンケート>

- ・ 学校生活の満足度では3年生が低いのは、コロナ禍で行事等が中止になった学年であったことが原因の一つであろうとの校長先生からの説明で納得がいった。
- ・ 学校評価アンケートについては教員の熱意がわかり、素晴らしい。
- ・ 授業アンケートについては生徒と先生の認識にギャップがあり、記名させることで回答に責任を持たせることができる。年2回の実施もよい。アンケートの項目建ては参考にしたい。
- ・ 「進路の栞」が使い辛いと言うことであれば、薄手のリーフレット等を考えるのもよいのではないか。
- ・ タブレットの利用については、小学校の発表会がプレゼンだけになってしまったことがあり、紙芝居や劇などを復活させて実施しました。一つの方法に偏らないことも必要だと思います。

5 まとめ

各委員からは、多くの好意的なご意見をいただいた。前回の総合探究（イナゲイメージ）の発表も含め先生方の意欲的な取り組みが評価されており、生徒もそれに応えようとしている姿が読み取れる。唯一「生徒の家庭学習の定着」に関しては各教科で手を尽してはいるものの逆に発表などの課題が同時期に集中してしまい、分散させる工夫も紹介した。

今後、生徒が先生方の授業を通じて、学ぶ意欲に高め、学力がついていく実感を得て、自主的に学習に取り組んでいく流れを作り出していきたい。